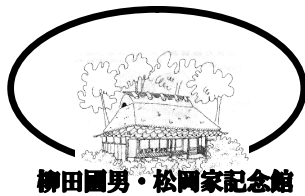


# 記念館新聞

福崎町立  
柳田國男・松岡家記念館  
〒679-2204  
神崎郡福崎町西田原  
1038の12  
電話：0790-22-1000



☆☆入館案内☆☆

☆開館時間  
9時～16時30分  
(入館は16時まで)  
☆休館日  
月曜、祝日の翌日  
12月28日～1月4日  
☆入館料  
無料

## 館日記

当館に「福崎町柳田國男ふるさと賞」の掲示板が設置されました。

この掲示板には「ふるさと賞」の受賞者(学校名、学年、氏名、作品名が書かれた)プレートが入ります。

このたび、第1回の受賞者3名のプレートが入りました。これから、ここに歴史が刻まれていきます。当館にお越しの際には、2階へ上がる階段横に設置された掲示板をご覧ください。

## 新年あけましておめでとーございます

旧年中は当館事業に對し、ご理解、ご協力を賜りありがとうございました。

おかげさまで、第34回山桃忌や昨年から始まった「福崎町子どもふるさと展」をはじめ企画展、特別展、さまざまな催しを開催することができました。

大勢の皆さまにご来館いただき、心より感謝いたします。

また、兵庫県中播磨県民局「地域の夢推進事業」の補助を受け、10月下旬から進めて

いまおこなった柳田國男生家の茅葺き屋根修理工事も12月に無事終了しました。

装いを新たにしました生家とともに、本年も皆さまをお迎えします。

どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。



岩田健三郎作「ほほよせて」

## 柳田國男生家と松岡鼎



松岡鼎

松岡家の長男である鼎(かなえ)は、万延元年(1860)に神東郡田原村辻川(現神崎郡福崎町西田原)に誕生しました。

鼎は、4歳のときに父・操(みさお)の仕事の都合で姫路に移り、13歳のときに再び辻川に戻ります。そして、19歳で昌文小学校の校長となります。

鼎が昌文小学校の校長となった翌年に、國男が小学校に入学します。しかし、鼎は國男の卒業を待たずに、医学を学ぶために上京し、辻川を後にします。



茅葺き屋根修理工事が完了した柳田國男生家

名作著書紹介

## 故郷七十年を讀む

柳田國男生家には、松岡家の両親と兄弟だけでなく、鼎のもとに嫁いできた妻も住むようになります。けれども、鼎夫婦はこの家で添い遂げることができませんでした。

國男は『故郷七十年』で、「私の家は二夫婦の住めない小さい家だった」とし、兄嫁が実家に帰ってしまふという「兄の悲劇を思うとき、『私の家は日本一小さい家だ』ということ、しばしば人に説いてみようとするが、じつは、この家の小ささ、という運命から、私の民俗学への志も源を發したといつてよいのである」と記しています。

つまり、鼎のつらい体験が國男の民俗学への道の原点となったのです。



福崎町柳田國男ふるさと賞の掲示板